

外務省委託

平和構築・開発における グローバル人材育成事業

The Program for Global Human Resource Development
for Peacebuilding and Development

令和6年度事業活動報告



広島大学国際室国際部留学交流グループ Global Peace and Development Career Network(GPAD)

発行 令和7年9月
企画・編集 広島大学国際室国際部留学交流グループ GPAD事務局
連絡先 Tel:082-424-2401 Mail:gpad@office.hiroshima-u.ac.jp
URL <https://gpad.hiroshima-u.ac.jp>
デザイン SANSAI 株式会社
コピーライト (c) 外務省



↑ Website



↑ LinkedIn



目次

- 2 ご挨拶
- 3 「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」とは
- 4 プライマリー・コース
- 5 JPO 赴任前研修
- 6 ミッドキャリア・コース
- 7 キャリア構築支援

次世代の、平和をつくる人を育む。

広島大学は、原爆投下から4年後の1949年に創設された国立の総合大学で、次の理念5原則を使命としています－平和を希求する精神、新たな知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革－です。

令和6年度よりこれら5原則に沿って広島大学は、外務省委託「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」を、国連訓練調査研究所(ユニタール)持続可能な繁栄局・広島事務所と協力し、海外派遣を実施する国連ボランティア計画(UNV)とも連携しながら、今後3年間この事業を実施することになりました。

本事業は、国際社会の課題解決に貢献できる平和構築や開発分野の人材を発掘・育成し、国連・国際機関でのキャリア構築を支援するために外務省が実施している人材育成事業です。この事業では、平和構築・開発分野で今後キャリアを形成していく意志を持つ方を対象とする「プライマリー・コース」(約4週間の国内研修と約1年間の海外派遣)、及び平和構築・開発に関連する分野で7年以上の実務経験を有し、同分野でのさらなるキャリア・アップを目指す方を対象に「ミッドキャリア・コース」(約1週間の国内研修)を実施します。両コースとも講義・参加型ワークショップによる研修、キャリア構築支援、世界中で活躍している研修修了生や講師陣とのネットワーキングの3つの活動を通じて、国連や国際機関の第一線で活躍するために必要な、実践的知識や技術を習得できるよう設計されています。

世界は、ますます混沌とした時代に突入していますが、地球規模の課題に立ち向かい、平和に関心を持つ人々が世界中から集まる広島は、自由で平和な社会を実現するために議論し、世界に羽ばたいていく場所にふさわしい地です。広島大学とパートナー機関が持つそれぞれの強みを組み合わせ、次世代の平和構築人材がこれから直面するであろう課題に挑んでいけるよう後押しをしていく所存です。



金子 慎治 SHINJI KANEKO

広島大学 理事・副学長(グローバル化担当)

令和6年度の研修に参加された方々が、各コースで数日から数週間をともに過ごし、時に意見を戦わせ、時に大きな笑顔や涙を分かち合いながら、互いの経験から新たなヒントを見つけ出し、姿を見て、今まさに、世界中の平和構築や開発の現場で求められている力がここにある、と確信しました。

激動の国際情勢の中で、国や地域を超えて国際機関で課題解決に取り組み続けることは、たやすいとは言えません。困難に立ち向かい、変化や不安定さに柔軟に対応し、挑戦し続けるバイタリティが必要です。ですが、地球規模課題の解決を目指す日々は、やりがいに満ち、世界中の仲間と協働できる大きな魅力もあります。

この道を志す方々の力になれるのは、国連ユニタール持続可能な繁栄局・広島事務所にとって大きな喜びであり、誇りでもあります。新たな事業の実施体制のもとで迎えた初めての「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の各研修コースの成功に貢献できたことを、心から光栄に、また嬉しく思います。来年度以降、さらに効果的な事業実施に協力できるよう、尽力して参ります。

この重要な事業を力強く牽引されている外務省ならびに広島大学の皆様に心より感謝いたします。また、国連ボランティア計画をはじめとする多くのパートナーの皆様、講師やすべてのご関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。最後に、今回研修に参加された皆様の今後益々のご発展、ご活躍をお祈り申し上げます。



国連ユニタール持続可能な繁栄局
広島事務所長 三上 知佐



「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」とは

背景－平和構築者の「寺子屋」－

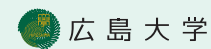
本事業の歴史は、2007年に外務省により開始された「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」に遡ります。このパイロット事業は、麻生太郎外務大臣(当時)の「平和構築者の『寺子屋』を作ります」という演説を受けて開始されたもので、2009年から「平和構築人材育成事業」として本格的に始動しました。その後、2015年より事業内容が刷新・拡大され、現在の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至ります。2024年度事業においても、平和構築・開発分野で今後キャリア形成を目指す方を対象とする「プライマリー・コース」と、平和構築・開発分野で7年以上の実務経験を有し、同分野でのさらなるキャリア・アップを目指す方を対象とする「ミッドキャリア・コース」を実施しました。さらに、研修修了後も引き続きこれまでの修了生に対し、国際機関等のポストへの応募時に必要なスキル指導や、現職及び元国連職員によるメンタリング等を行う「キャリア構築支援」を実施します。

2007年のパイロット事業開始から現在に至るまで、日本のみならず世界中の平和構築及び開発分野における文民専門家の育成に寄与し、多くの修了生が国際機関やNGO、政府機関等の一員として、世界各地の平和構築・開発の現場において活躍しています。



広島大学 Global Peace and Development Career Network (GPAD) 事務局

広島大学 GPAD 事務局は、本事業のパートナー機関である国連ユニタール持続可能な繁栄局・広島事務所と国連ボランティア計画(UNV)と調整、協力して各研修の企画・準備・運営を行い、平和構築の担い手となる人材育成に努めます。また、国立の総合大学という特色を活かしつつ、修了生のさらなるキャリアアップに向けたサポートを実施し、国連・国際機関のみならず、アカデミアから実務家、官から民、そしてジュニアからシニアに至るまでの幅広い人材ネットワークの構築を目指します。



世界で活躍するためのステップ





プライマリー・コース



01. 国内研修

02. 海外派遣

03. キャリア構築支援

国内研修で同志に出会い、海外派遣を通して確かな実績を積み上げる！

プライマリー・コースは、将来的に平和構築・開発分野の国際機関において活躍を希望する有志を日本国内外から募り実施されます。このコースでは国内研修修了後、日本人の研修員を対象に海外派遣を行います。

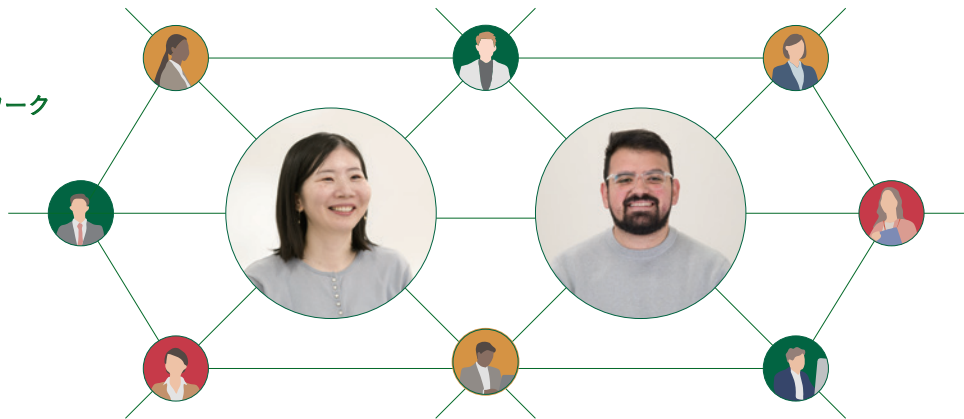
今年度の国内研修は2025年1月26日から2月22日にかけて実施されました。1週間のオンライン研修に続き、東京及び広島大学東広島キャンパス（一部広島市内）における3週間の対面研修では、現役及び元国連・国際機関職員や広島大学の教員・修了生等、計36名が講師を務めました。

今年度の研修員は、国際機関、NGO、政府機関及び民間企業等での実務経験を有する計23名で、その内訳は、日本国籍13名、外国籍10名（ウガンダ、ウクライナ、エルサルバドル、パレスチナ、パングラデシュ、フィジー、マリ、南スーダン、レバノン、アフリカ連合委員会）でした。

本事業の柱となるプライマリー・コースは、①平和構築と国際開発、国際機関についての実質的な知識、②国際機関で働くためのワーキングスキル、③キャリア構築のスキル、④広島から発信される平和のメッセージの4つのテーマに加え、戦略的予測や人工知能（AI）利用の展望を含むUN2.0など、デジタル時代を踏まえたテーマについて、そしてフィールドセキュリティ研修も取り上げました。そのうち4つめのテーマについて研修員は国際平和文化都市を目指す広島市にある広島平和記念資料館を訪れ、被爆者から直接講話を聞く貴重な機会を得ることができました。

4週間の国内研修を終えた日本人研修員13名は、国連ボランティア計画（UNV）の調整のもと国連ボランティアとして海外派遣（1年間）され、2025年3月以降それぞれの任地での活動を順次開始しています。

研修を通して 広がるネットワーク



宇原 英美 EMI UHARA 日本出身

これまで教育分野で開発と緊急人道支援の経験を積んできましたが、経験豊富な講師陣による平和構築に関する講義や、他分野を専門とする他研修員とのディスカッションから多くのことを学びました。また、国連の現在（組織体制や協働枠組み）や今後（未来のための約束やUN2.0）について体系的に学べたこと本コースの提供するキャリア及びネットワーク構築支援によって、今後のキャリアの方向性が明確になったこと、講師陣に加えて過去の修了生、派遣先の国で勤務される国連職員の方たちと広く繋がれたことで、安心して海外派遣に臨めそうです。

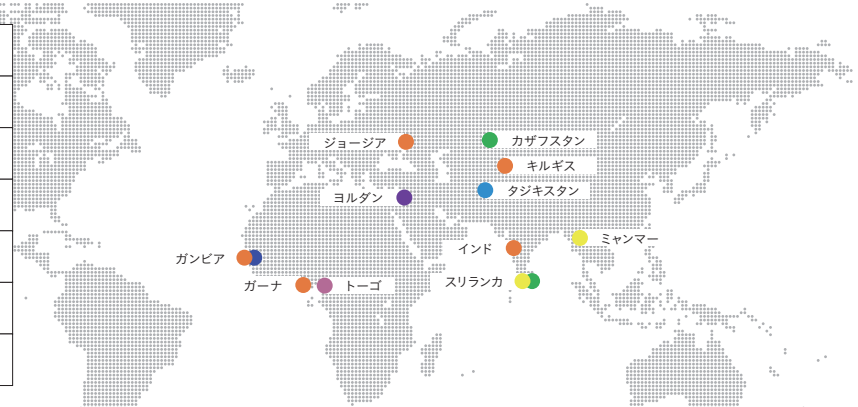
2025年4月から勤務を開始したUNICEFスリランカ事務所で研修での学びを役立て、平和構築に資する教育制度の構築や強化に貢献できたらと思います。

FADI ROBERT HACHEM レバノン出身

広島大学と国連ユニタールが行った平和構築と開発分野でのこのプライマリー・コースに参加したことは、私自身に大きな変化をもたらしました。持続可能な平和を目指す専門家や実務家、そして学識者との4週間にわたる交流を通じて、紛争解決、開発、そして国連平和維持活動についての貴重な見識を得ることができました。また、日本の外務副大臣との大変有意義な議論から被爆者の方との印象深い出会いまで、すべてが私の見識をより深いものにしてくれました。そして、このプライマリー・コースを通じて、平和構築における教育、対話、そして連携の重要性を再確認しました。今回の研修で得た繋がりと学びに感謝するとともに、これらを実際の仕事に活かしていきたいと思います。

2024 年度 プライマリー・コース日本人研修員の海外派遣先

● 国連開発計画（UNDP） キルギス共和国、ジョージア、ガーナ共和国、インド共和国、ガンビア共和国
● 国連児童基金（UNICEF） カザフスタン共和国、スリランカ民主社会主義共和国
● 国連常駐調整官事務所（UNRCO） タジキスタン共和国
● 国際移住機関（IOM） ガンビア共和国
● 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR） ヨルダン
● 国連世界食糧計画（WFP） トーゴ共和国
● 国連人口基金（UNFPA） ミャンマー連邦共和国、スリランカ民主社会主義共和国



2007 年度～ 2024 年度までの18年間の派遣先機関数：27 機関派遣先総数：69か国、地域

UNDP(国連開発計画) / 57 名	OCHA(国連人道問題調整事務所) / 3 名	UNDCO(国連開発調整室) / 2 名
UNHCR(国連難民高等弁務官事務所) / 44 名	UNFPA(国連人口基金) / 5 名	UNDRR(国連防災機関) / 1 名
UNICEF(国連児童基金) / 42 名	UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション) / 2 名	UNFICYP(国連キプロス平和維持隊) / 1 名
IOM(国際移住機関) / 23 名	UNODC(国連薬物犯罪事務所) / 3 名	UN-Habitat(国連人間居住計画) / 1 名
WFP(国連世界食糧計画) / 20 名	WHO(世界保健機関) / 3 名	UNOGBIS(国連ギニアビサウ統合平和構築事務所) / 1 名
UN Women(国連女性機関) / 9 名	UNESCO(国連教育科学文化機関) / 2 名	UNMAS(国連地雷対策サービス部) / 1 名
UNRCO(国連常駐調整官事務所) / 10 名	UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関) / 2 名	UNAMID(达尔フル国連AU合同ミッション) / 1 名
UNOPS(国連プロジェクトサービス機関) / 6 名	IDEA(民主主義・選挙支援研究所) / 1 名	UNMIS(国連スーダンミッション) / 1 名
FAO(国連食糧農業機関) / 3 名	Office of UN Funds and Programmes Cape Verde(国連基金・計画カーボベルデ事務所) / 1 名	MONUSCO(国連コンゴ民主共和国安定化ミッション) / 1 名



国連ボランティア計画 UNV

国連ボランティア計画（UNV）は、国連システムにおけるボランティアリズムの中心機関の役割を担う国際機関です。日本では2007年から「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」を通じ、プライマリー・コース日本人研修員を国連ボランティアとしてさまざまな国・地域へ派遣しています。

ボランティア活動は、その人自身に恩恵をもたらすだけではなく、社会的・経済的に大きな貢献を成し、人々の間に信頼と助け合いの精神を育むことで、地域社会の結束をより強める役割も果たします。プライマリー・コースを通じて派遣される国連ボランティアは、世界各地の人々の生活の改善に努め、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に寄与しています。その活動に携わることは、平和と人間の安全保障、人道支援、開発協力等の分野でさらなる技能を培い、国際的な実地経験を積み、国連システムに直に触れる機会にもなります。

これまで日本から派遣された国連ボランティアの活動終了後のキャリアは、国連及び国際機関をはじめ、政府機関、研究機関、大学、民間企業など多岐にわたります。今後も、外務省・広島大学GPAD事務局及び国連ユニタール持続可能な繁栄局・広島事務所と連携しながら平和構築や開発の現場で活躍する日本人専門家の養成を支援していきます。

国連ボランティア計画 東京駐在事務所 代表・パートナーシップ構築専門官 櫻井亜沙子



JPO 赴任前研修



任地への派遣に備える！

JPO（ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー）派遣制度は、派遣国政府の費用負担のもと国際機関が若手人材を受け入れる制度で、外務省国際機関人事センターでは日本人を対象に、外務省が派遣取決めを結んでいる国際機関で2年間、勤務経験を積める機会を提供しています。

広島大学GPAD事務局は、2024年10月26日から29日の4日間にわたり、JPO赴任前研修を実施しました。本研修は、2024年度派遣予定のJPO候補者39名（研修時）を対象にオンラインにて実施し、垂井美枝子氏（元国連児童基金（UNICEF）本部人事局次長）と岡本カミンスキ健氏（国連大学（UNU）人事部チーフ）が講師を務めました。39名のJPO候補者は、研修を通じてJPOひいては国際公務員としての心構えや留意点を学び、また先輩JPOとの交流を通じて実践的なアドバイスを得ることでそれぞれの任地への派遣に備えました。





ミッドキャリア・コース



01. 自己分析

02. キャリアプランニング

03. キャリア構築支援

より深いスキルと能力を身につけ、さらなるキャリア構築を目指す！

ミッドキャリア・コースは、平和構築や国際開発に関連する分野で7年以上の実務経験がある中堅クラスの方々を対象に実施されます。このコースはプライマリー・コースと同様に国内外から有志を募り、選ばれた参加者の知見と経験を活かし、さらなるキャリア構築を行えるようにデザインされており、参加者が将来、管理職を目指すにあたり必要なスキルを学ぶ機会でもあります。

今年度の研修は、2025年1月6日から12日にかけて広島大学東広島キャンパス（一部広島市内）において実施しました。水島真美氏（元国連事務総長特別代表〈防災担当〉兼国連防災機関〈UNDRR〉長）とGuillaume Foliot氏（国連システムスタッフカレッジ〈UNSSC〉上級アドバイザー）をリードファシリテーターとして迎え、現役及び元国連職員や赤十字国際委員会（ICRC）、広島大学から計8名が講師を務めました。

研修員は、国連機関やNGO、政府機関等の多様な組織や分野での経験を有する日本国籍10名、外国籍10名（アフガニスタン、バングラデシュ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、キプロス、ケニア、パキスタン、フィリピン、韓国、ウクライナ、米国）の計20名が参加しました。

本コースは、①人事管理関連、②平和構築・開発関連の2種類のテーマで構成されました。①は「自己分析」、「コミュニケーション」、「チーム管理とチームワーク」、「模擬面接」、「リーダーシップ」等に注目し、②は気候変動と災害リスク削減、武力紛争と人道的ニーズ、貧困削減と経済発展、戦略的予測（UN 2.0）等、国際社会が直面する主要な問題に関する最新の動向を取り上げました。

自己分析、リーダーシップ、面接準備等のセッションは特に研修員からの評価が高く、「これからのキャリアを促進するための具体的な知識やスキルを持って職場に戻る」や「他の研修員の経験を聞いて、勇気づけられた」など、さまざまな声が聞かれました。なお、このミッドキャリア・コースにおいても研修員は広島平和記念資料館を訪れ、被爆者から直接講話を聞く貴重な機会を得ることができました。



藤平 純 JUN FUJIHIRA UN-HABITAT カンボジア

2024年度ミッドキャリア・コースでは、国際的に豊富な経験を積まれたプロフェッショナルの方々が講師となり、具体的な事例を交えながら国際支援・人道支援の傾向や、チームマネジメントを含めたリーダーに不可欠な技能について、幅広い内容を集中的に学ばせていただきました。研修では11か国からの参加者と交流したり議論する機会も多く視野が広がるだけでなく大変多くの刺激を得ることができました。キャリアの棚卸しや中・長期の目標設定、そして模擬面接に取り組む時間もあり、キャリアゴールの達成に向けて自分が取り組むべき課題を把握できたことはとても有意義でした。研修終了後も連絡を取り、将来的な連携の可能性について意見交換できるネットワークを構築できたことも、研修へ参加した成果だと感じています。



踏み出した一步の、その先へ。

キャリア構築支援

平和構築、国際開発の分野においてキャリアを構築していくことは非常に厳しい道のりです。

そのためGPAD 事務局は、本事業の研修を修了された方を対象に研修修了後も引き続き、以下のようなキャリアサポートを提供します。

- ☑ 国際機関に応募するための、履歴書や応募書類等作成のサポート
- ☑ 面接練習
- ☑ 現職及び元国連職員によるメンター制度
- ☑ これまでの修了生間のネットワーキング構築の支援
- ☑ キャリア構築支援に関するウェビナー開催

GPAD 事務局が構築する幅広い人材ネットワークを活かし、個人が繋がりがあうことで、それぞれが情報交換だけでなく助け合える環境づくりにも注力していきます。



片柳 真理 MARI KATAYANAGI

広島大学大学院人間社会科学研究所 教授

近年の世界情勢から国連に流れる予算は平和構築分野でも極めて限られてきています。このことから、研修員には、研修を経て国連に勤務した上で、国連以外にも、NGOでの活動や民間事業を通じた国際協力への関わり方を、これまでよりも柔軟に様々な角度から検討することが求められます。私自身は研究で「平和のためのビジネス」をテーマとしていますが、民間セクターが国際協力で活躍する方法を考えることも重要ですし、国連機関が民間セクターとの協力をより積極的に検討する他にないと考えます。平和構築ではローカルな動きを支援することが注目されていますので、ローカルビジネスとの連携も重要です。

広島大学には平和について多様な学問分野で研究している教員が集まっているため、多角的に平和を捉える資源が多くあります。また世界中から集まる学生たちの中には、実際の紛争地出身の学生たちもいますので、研修の中でも交流の場を作っていく予定です。これらは広島大学が平和構築事業を担う意味・意義だと考えます。研修員の皆さんには、研修を通じて築く広いネットワークを生かして、新しい取り組みに挑んでいって欲しいと願っています。